

中国春季リーグ戦男子1部 First stage 及び女子2部1日目結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

4/19、20 に広島大学北体育館において、中国春季リーグ戦男子1部 First stage が開催されました。

また、4/20 に広島国際大学体育館において、中国春季リーグ戦女子2部1日目が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

vs 広島経済大学

●2-3 (25-21、16-25、13-25、25-20、9-15)

vs 広島修道大学

○3-0 (25-14、25-16、25-15)

vs 福山平成大学

●0-3 (13-25、19-25、15-25)

(女子)

vs 川崎医療福祉大学

○2-0 (25-16、25-13)

vs 周南公立大学

○2-0 (25-18、25-23)

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-haru-top.html>

昨秋1部4位の男子は、昨春のリーグ戦から3戦連続でフルセットで敗れている広島経済大学と対戦し、今回も開幕戦からフルセットの熱戦となりましたが、あと一歩及ばず黒星スタートとなりました。両者2年生以上がスターティングメンバーに名を連ね、広大は4年生が5人、3年生が2人の上級生での構成でしたが、昨年からのメンバー替わりは、相手が

1 人に対して広大が 3 人となり、経験面では相手優勢の状況で試合を迎えました。しかし、1 セット目は有利なはずの相手にサーブミスなどの浮ついたミスが目立ち、エースに託す形が出来ていた広大が先手を取ってそのまま押し切ることが出来ました。ただ、2 セット目以降は一転し、1 セット目は相手ミスで切れていたローテーションが回らなくなり、短い時間、短いラリーで失点が続いてしまう課題が浮き彫りになりました。それでも、3 人目のセッターとして丹羽（3 年・広島・盈進高校）が登場した 4 セット目はもう一度息を吹き返し、次週での逆転 3 位に可能性を残す粘りを見せてくれました。

チームを引っ張るのは主将の水谷（4 年・三重・松阪高校）とエースの山下（4 年・広島・安古市高校）ですが、2 人とも体の状態が目に見えて良く、このリーグ戦に向けて仕上げてきた熱意と、実際にこの状態にまで持ってきた忍耐力、日々の努力をまざまざと感じました。山下は身長は 173cm ながら、一步助走でも高い打点から重いスパイクを打てる稀有なプレーヤーで、今春はミスの精度も非常に高くなり、メンタル面や判断力の更なる成長を感じました。2 人に共通して言えるのは、全てのプレーから「こうしたい」が伝わってくるだけでなく、味方がこうで相手がこうだからこうしたい、と非常に筋が通っているところで、これは多くの選手が学ぶべきところです。ただ単に飛んで、打って、上げて、拾っているだけでは目の前のボールに体が反応しているだけですが、意図を持つこと、体を思い通りに動かすことができること、相手を動かされることの条件が揃ってこそ、試合を動かすバレーボーラーになることができ、だからこそたった 1 本で会場の雰囲気を変えられるのだと思います。山下がセンターバックから、そして水谷がライトバックから「俺も決められるから持って来い」とボールを呼んでいた姿は非常に頼もしかったです。2 日目には途中出場ながら新 1 年生の川村（東京・日本大学第三高校）が早速ブレイクし、初の正リベロ出口（3 年・長崎・五島高校）も 1 日目にはなかった時間を生み出す工夫が見て取れました。チーム状態はまだまだ上がりますので、相手ペースになったときにどう乗り越えるかをきちんと確認し、次週の経大戦に備えて欲しいと思います。

一方、昨秋 2 部 3 位の女子は、新セッターに 165cm の大石（2 年・宮崎・延岡高校）をコンバートし、レフトには西岡（2 年・兵庫・姫路高校）と怪我から復帰した岩永（3 年・長崎西高校）、センターに東（4 年・愛媛・宇和島東高校）と中道（2 年・広島・基町高校）、ライトに長谷川（3 年・静岡・浜松北高校）、リベロに光本（2 年・岡山城東高校）のメンバーで臨みました。2 試合を通して、キャッチは押されている時間が長かったものの、速い攻撃よりもまずはスパイカーがしっかり打つこと、がチームとして徹底されていて、焦りを感じた場面がほとんどなかったことが非常に印象的でした。ブロッカーが揃ったことでワンタッチや軟打への対応が多くなりましたが、コート内の選手全員が、背伸びすることなく自分ができることに集中していたので、自分たちの形でラリーが切れてムードが上がる好循環を作ることが出来ていました。周南戦の 2 セット目は 4 点を追いかける展開が続きまし

たが、東がフロントに上がったところで「このままじゃダメ。追いつこう」と声をかけ、相手が崩れたところで長谷川がミスなくサーブを続けて追いついたところが勝敗の分かれ目となりました。ピンチサーバーとして活躍した大嶋（3年・和歌山・桐蔭高校）も含め、自分にできることをしようと思い、実際それがきちんとできることに今冬の成果を感じました。

ただ、残り3戦はそう甘くなく、前2枚でもレシーブが良い山陽、ローテの濃淡があり嵌ると強い山大、センター線も強く盤石感のある島大と難敵が揃っています。特に山陽戦では決め急がないことが大切で、ラリーが長くなっても自分たちの良い形をとにかく作ること終始して欲しいと思います。攻守の切り替えをいつも以上に意識して、スパイカーが万全の体制で打てる状況を数多く作り出すことが大切です。また、山大戦、島大戦で勝つためには強いサーブが不可欠で、ローテーションごとにどう攻めるかを明確にする必要があります。ただ、広大が相手を崩そうとするように、相手も広大を崩そうとしてきますので、1日目で実際にボールが落ちた場面や苦しいと感じた場所を光本や西岡が中心となって確認し、体の負荷を抑えつつ、具体的に相手をイメージした練習をして1日目以上の2日間を過ごせるように頑張りましょう。

今週末は、下関市総合体育館で男子1部 Second stage が、ゼオンアリーナ周南で女子2部2日目、3日目が行われます。

引き続きよろしくお願いいたします。